

子どもは遊びで育つ！～地域で取り組む子どもの遊び～

「幼児期からの運動・体力向上指導者講習会」

1 趣 旨

未就学児に関わる指導者に対し、発達段階に応じた遊びを中心としたプログラムを提供する。それによって、就学前の子どもたちに運動の楽しさを実践させ、動きの質を高めたり、普段の生活の中で体を動かすことを習慣化できるようにしたりできる資質を高める機会を持つ。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成 28 年 9 月 17 日 (土)
- (2) 場 所 島根県立少年自然の家
- (3) 共 催 島根県教育庁保健体育課、島根県立少年自然の家、島根県立青少年の家、国立三瓶青少年交流の家
- (4) 対 象 幼稚園教諭、保育士、子育て支援センター関係者、幼児期の子どもの指導に関わる方、小学校教員、スポーツ推進委員、レクリエーション指導員、児童クラブ・放課後子ども教室指導員、他
- (5) 参加者 26 名 (募集 50 名)
- (6) 講 師 神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 國土 将平 氏
- (7) 日程・研修内容

9/17 (土)	9:30	○開講式
	9:45	①講義「幼少年期の遊びと運動発達」 ～外遊びによって養われる子どもの能力～ ～遊びの質を高める環境づくり～
	11:20	②体験活動「どんぐりの谷」のアクティビティー体験
	13:00	③視察「どんぐりの谷」開放デー
	13:30	④グループ研修「外遊び・自由遊びの現状と課題」 「今後の遊び（支援方法・遊び場づくりなど）」
	15:00	○閉講式

3 事業の内容

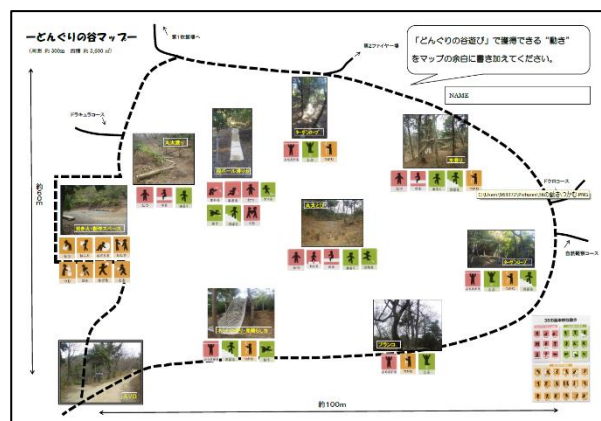
(1) 事業の特色

本事業は、大学院で子どもの発育発達について研究に取り組んでおられる教授を講師に招き、「幼少年期の遊びと運動発達」についての講義を聞いたり、参加者がグループに分かれて、「遊び場づくりの課題と現状」をテーマに意見交換をしたりしながら、よりより遊び場づくりについて考えていく。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

①講義では、子どもの発育発達についての研究に取り組んでおられる教授に講義をしていただ

くことで、幼児期における運動・体力向上に向けた遊び・遊び場づくりの大切さについて様々な視点から学べるようにした。また、午後のグループ研修につなげるために、島根県立少年自然の家「どんぐりの谷」(遊び場)での②体験活動を取り入れた。「どんぐりの谷」マップには、『遊んで身に付く 36 の基本的な動き』をそれぞれのアクティビティーに対応させた。午後の④グループ研修は、実際に普段幼児と活動する中で感じている実情や課題、改善策について意見交換ができるようにするとともに、意見交換の内容を発表することで、課題や改善策を共有できるようにした。さらに、発表内容について講師から指導講評をいただくことで、改善策のヒントをもらうようにした。



4 成果と課題

《成果》

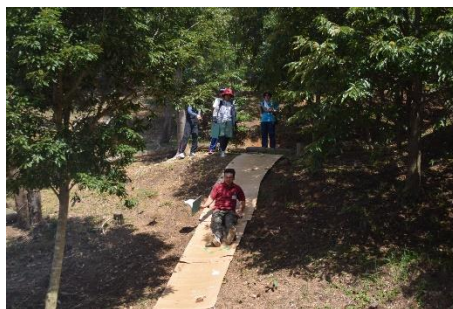
- ・本事業は、島根県の関係諸機関や公立青少年教育施設との初めての共催事業であった。事業の実施にあたっては、昨年度から検討委員会を設置し、5回の委員会で協議を重ねて実施した。今後の地域力向上事業の展開においても、より連携を密にしながら進めていくことを確認できた。
- ・「幼児期における運動・体力向上に向けた遊び・遊び場づくりについて特化した内容だったので、テーマに沿った課題や改善点が絞りやすく、それぞれの立場で、今後の活動に活かしていける講習会であった。」といった肯定的な声を聞くことができた。
- ・グループ研修の形をとったことで、それぞれの立場で様々な意見交換をすることができ、「新たな視点や考え方を得ることができた。」という声も聞くことができた。

《課題》

- ・この講習会は、来年度も継続して実施の方向だが、今年度の実施時期は、幼稚園・保育園の運動会等とも重なる時期であったことから、開催時期の検討が必要である。
- ・来年度に向けて、島根県の関係諸機関や各青少年教育施設と連携しながら、幼児を対象としたプログラムの見直しや新たなプログラムの開発を進めていくが、幼稚園・保育所への広報戦略や連携する園の指定、具体的な評価の方法等をより具体的なものにしていく必要がある。
- ・本事業の参加者には、『遊んで身に付く 36 の基本的な動き vol.1』を配布し周知したが、今後も幼稚園・保育園の広報活動に活用し、普及に努めていきたい。



①講義



②体験活動



④グループ研修